

黄曉芬の研究略歴

黄 曉芬 京都大学文学博士

1957 年 4 月 18 日生まれ(女性)、中国西安出身(69 歳：2026 年 6 月現在)

○学歴

1978.02～1982.01 中国 西北大学歴史系(考古学) 歴史学士
1990.04～1992.03 日本 京都大学大学院修士課程 (考古学専攻) 文学修士
1992.04～1996.03 日本 京都大学大学院博士課程 (考古学専攻) 単位修了
1997 年 3 月 24 日 京都大学 文学博士[文博・第 76 号]

○職歴

1982.02～1989.01 中国西安 陝西歴史博物館 助理研究員
1992.09～2000.03 日本京都 京都造形芸術大学・京都芸術短期大学 非常勤講師
1997.09～2000.03 // 国立国際日本文化研究センター 特別研究員
1999.04～2000.03 日本 大阪大学文学部・大学院 非常勤講師
2000.04～2026.03 日本 東亜大学人間科学部 教授・同大学院 教授(2026.03.31 日付に定年退職)
2026.03～現在に至り、東亜大学大学院 客員教授
2007.04～2018.03 山口大学人文学部・大学院 非常勤講師
2019.04～現在 早稲田大学総合研究機構 東アジア都城・シルクロード考古学研究所 招聘研究員
2019.04～2027.03 早稲田大学総合研究機構 東アジア都城・シルクロード考古学研究所招聘研究員
2024.05～2027.04 中国西安 陝西師範大学歴史文化研究院 海外短期招聘教授

○受賞歴 2018 年 2 月 27 日、紅河デルタに残る交趾郡治・ルイロウ都市の考古学研究成果より、ベトナム文化部文化大臣賞を受賞。

○研究略歴

1. 研究の原点と東アジア文明研究の始動

中国の国立西北大学を卒業後、唐代の華清宮遺跡発掘や秦漢都城・陵墓の調査に従事し、考古学の実践的経験を積んだ。1989 年に京都大学大学院へ在籍して以降は「東アジア文明研究」を本格化させ、中国の都城と陵墓を二大文明装置としてフィールド調査を展開。博士論文を基にした『中国古代葬制の伝統と変革』(2000 年)では、中国の葬送儀礼の歴史的変遷を初めて体系化し、東アジアの古墳文化への影響を実証的に解明した。1990 年代末には、日中協定による湖南省城頭山遺跡の発掘で日本チームを率いた。

2. 秦漢帝国の空間構造と都城建設理念の解明

2000 年以降は文科省の科研費による海外学術調査を行い、秦漢帝国の都城や地方都市、また朝鮮半島、日本列島、ベトナム、モンゴル、シベリアなど、帝国周縁の遺跡調査へ展開した。高精度 GPS 器材を用いた漢の都城長安建設の探求では、「南北中軸線」の存在を検証し、特に漢長安城と劉邦長陵の建設選地、また自然山河と祭祀遺跡を含む、いずれも渭水=天の川を中心に、南北中心対称的に配置されたことが判明した。この都市計画や思想理念が中国歴代王朝のみならず、日本の古代宮都やベトナムの都城建設に多大な影響を与えたことも指摘した。

3. 地中海文明との比較とベトナム・ルイロウ遺跡の発掘

東西の都市文明を比較するため、地中海沿岸(トルコ、エジプト、西欧等)のローマ帝国属州都市や長城、道路などの学術調査を実施。百年以上の調査・公開の歴史を持つ地中海圏に対し、東アジアの周縁都市研究は遅れ、破壊の危機にも瀕している現状を問題視した。これを受け、2012 年にベトナム紅河デルタの交趾(こうし)郡治(政庁所在地)であるルイロウ遺跡の調査プロジェクトを発足。翌年から 10 年連続で日越協定発掘調査を行い、長年不明だった位置の特定や都市建設の変遷、考古学的編年を実証的に解明し、多くの研究成果を刊行した。

4. 近年の成果と今後の展望

2025 年春のルイロウ発掘では、外城西壁の下層から 3 世紀初頭(漢末～三国呉)の磚(レンガ)造りの堤防跡とみられる遺構や舗装道路を検出し、優れた都市インフラの存在を証明した。さらに、近隣の旧河道から同時代の木造構造船 2 艘を発見し、河川交通や南海交易の貴重な実物資料を得た。現在はルイロウ城址のボーリング調査に加え、インド文化圏の影響が強い中南部のチャンパやオケオなど古代港市遺跡の調査も進めており、今後は南海交易の真相究明を「東アジア文明研究」の重大課題として探求していく。